

様式2【前期】

令和7年度中堅教諭等資質向上研修【前期】教科指導研修シラバス

高等学校 理科 教科指導研修

※ 愛知教育大学への交通手段については、後日送付する通知文を参照すること。

1 研修日程

(研修者：高等学校26人)

期 日	時 間	研 修 内 容	会 場
第1日 8月5日 (火)	9:00~ 9:30	受付<総合教育センター多目的ホール前>	総合教育センター 多目的ホール
	9:30~ 9:40	オリエンテーション	
	9:40~10:20	【講義：学習指導要領（理科）の考え方について】 講師 県立高等学校教諭（3名） 総合教育センター研究指導主事（3名）	
	10:30~12:30	【発表・研究協議：「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり】班別（科目別）活動 講師 県立高等学校教諭（3名） 総合教育センター研究指導主事（3名）	
	12:30~13:30	休憩	多目的ホール 化学実験室 生物実験室
	13:30~16:20	【実験・研究協議：学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり】班別（科目別）活動 講師 県立高等学校教諭（3名） 総合教育センター研究指導主事（3名）	
	16:20~16:30	教科指導研修の振り返り（振り返りシート記入） 諸連絡	
第2日 11月7日 (金)	9:00~ 9:30	受付<愛知教育大学 自然科学棟>	愛知教育大学 自然科学棟 502号室
	9:30~ 9:40	オリエンテーション	
	9:40~12:30	【講義・実験：地学分野の授業づくり】 講師 大学教授	
	12:30~13:30	休憩	愛知教育大学 自然科学棟 502号室
	13:30~14:50	【発表・研究協議：観点別学習状況の評価について】 班別（科目別）活動 総合教育センター研究指導主事（3名）	
	15:00~16:20	【実験・研究協議：個別最適な学びをデザインする】 班別（科目別）活動 総合教育センター研究指導主事（3名）	愛知教育大学 自然科学棟 502号室
	16:20~16:30	教科指導研修の振り返り（振り返りシート記入） 諸連絡	

2 連絡事項（課題等）

連絡事項 (課題等)	全日程 共通	【Teamsへの参加について】 課題の提出、研修資料の配付等ではMicrosoft Teamsを利用するため、5月16日発出の通知に示されているチームコードから、「R7中堅研【前期】(理科)」に5月30日までに参加すること。 【班別（科目別）の活動について】 ・物理、化学、生物の講座のいずれかを受講する。地学の講座は、開講しない。 【持ち物について】 ・愛知県教育委員会が配備したSurface Proまたは所属校で管理職に許可されているタブレット端末（※校内で持ち出し手続きを行うこと）
---------------	-----------	---

(2種類)	・白衣（化学または生物の講座を受講する教員） 【発表について】 ・後述する提出課題①及び②については、口頭で発表する。 - ア 発表時間は、準備から質疑まで一人10分程度とする。 - イ 授業の様子を記録した画像や動画等を補助的に利用してもよい。その場合の電子データは、Surface Pro端末等に入れておく。 【eラーニングについて】 ・eラーニング教材「高等学校理科の授業構想の工夫」について、指定された学習期間（6月2日（月）～7月4日（金））内に視聴しておく。 【その他】 ・県立学校に所属しない受講者は、教育委員会配備のタブレット端末の持参には該当しない。
	第1日 【持ち物について】 ・課題を印刷したもの 5部（当日の協議に利用） ※PDFデータを印刷（両面印刷可）して、ホチキスで左上を綴じたものを研修当日に5部持参する。なお、授業プリント等がB4、B5判で作成されている場合は、印刷時にA4判に調整する。 【課題及び提出について】 ・課題提出 ① 学習指導案及び授業プリント等 ※学習指導要領（平成30年告示）の趣旨を踏まえた観察、実験等を含む授業で実践済みのもの。授業プリント等は、授業内で使用したものがあ場合は添付する。 ※昨年度の実践でも可とする。 ② 観点別学習状況の評価事例 ※「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」から一つを設定し、その段階的な評価（A～C）の事例を紹介する。 ※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校理科（令和3年8月、国立教育政策研究所）の第3編第2章を参考にする。 （https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_rika.pdf） ・課題様式 「3 課題様式」及び総合教育センターのウェブページ「理科の広場」の中にある次の資料を参考にすること。 「高校理科の授業改善ハンドブック」の例（11～12ページ） - 総合教育センターウェブページ「研究事業→教科・領域の研究→理科」からダウンロードできる（旧ウェブページでは「教科・領域→理科」）。 ・提出期限 令和7年7月25日（金） ・提出方法 Teams上の課題提出機能を使って作成したPDFデータを提出する。 ①の学習指導案（授業プリント等含む）と②の評価事例を合わせて、A4判で3～6ページ程度になるようにまとめ、PDFデータを作成する。 - PDFデータのファイル名は、「受講番号（半角8桁）＋学校名（県立〇〇高等学校の〇〇部分のみ）」とする。【例】20014###〇〇.pdf
	第2日 【持ち物について】 ・第1日の班ごとに配付し、協議で用いた資料一式（引き続き課題②を中心として、協議を行うため）

3 課題様式（記入例）

(1) 提出課題①（学習指導案）について

令和7年度中堅教諭等資質向上研修【前期】 教科指導研修 高等学校理科

受講番号（8桁）

▽

理科（科目名）学習指導案

▽

- 1 日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇）第〇限（〇〇：〇〇～〇〇：〇〇）
2 ク ラ ス 〇年〇組（〇系クラス、〇〇名）
3 場 所 〇年〇組ホームルーム
4 使用教材 教科書：「〇〇〇〇」（出版社名） 副教材：図表、授業プリント等
5 単 元 第〇編 〇〇〇〇 第〇章 〇〇〇〇
6 単元の目標

個人情報の取り扱いに十分留意し、特に児童生徒の個人名及び男女の区別は記載しない。

- (1) 【知識及び技能】に関わること
(2) 【思考力、判断力、表現力等】に関わること
(3) 【学びに向かう力、人間性等】に関わること

7 本時の指導と評価の計画

(1) 単元内での位置

第〇編 〇〇〇〇

第〇章 〇〇〇〇（全〇時間）

1 〇〇〇〇 □時間

2 〇〇〇〇 □時間（本時■時間／□時間） ←本時の位置に下線を記す。

(2) 重点目標と評価規準

【◆◆◆◆】 ←観点別学習状況の評価の3観点のうちの一つを重点目標として記す。
〇〇〇〇…。

(3) 本時の展開

学習場面	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準と評価方法
導 入	課題：（本時の重点的な学習テーマについて簡潔に示す。）		
展 開			【◆◆◆◆】 〇〇〇〇…。 [授業プリント]
まとめ			

(4) 評価基準

【◆◆◆◆】の評価 ←(2)で設定した観点別学習状況の評価を記す。

A 〇〇〇〇〇〇〇〇〇…。

B 〇〇〇〇〇〇〇〇〇…。

C 〇〇〇〇〇〇〇〇〇…。

・Cの場合は、…などして個別に支援する。

8 授業者の振り返りと授業改善に向けて

授業の実施後、手ごたえがあったことや更なる工夫が必要と感じたことなどを授業者が記入する。

9 御高評

(2) 提出課題②（観点別学習状況の評価事例）について

令和7年度中堅教諭等資質向上研修【前期】 教科指導研修 高等学校理科

受講番号（8桁）

▽

観点別学習状況の評価事例

▽

1 科目・単元・内容

（例）化学基礎・物質と化学反応式・炭酸カルシウムと塩酸の反応

2 評価の観点

（例）「主体的に学習に取り組む態度」

3 評価のポイント

（例）〇〇の活動を行い、ワークシートの記述から試行錯誤している状況を見取る。

4 評価基準表

十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する（C）
〇〇しており、さらに□□している。	〇〇している。	〇〇していない。 （〇〇が不十分である。）

5 評価例

【評価Bの例】

〇〇していることがこの記述から読み取ることができる。従って主体的に学習に取り組む態度の観点で「おおむね満足できる」状況（B）であると判断できる。

評価Bについて、生徒がワークシート等に記述や記載した事例を一つか二つ示す

【評価Aの例】

〇〇しているとともに、□□していることがこの記述から読み取ることができる。従って主体的に学習に取り組む態度の観点で「十分に満足できる」状況（A）であると判断できる。

評価Aについて、生徒がワークシート等に記述や記載した事例を一つか二つ示す

【評価Cの例】

〇〇が不十分であることがこの記述から読み取ることができる。従って、主体的に学習に取り組む態度の観点で「努力を要する」状況（C）であると判断できる。

評価Cについて、生徒がワークシート等に記述や記載した事例を一つか二つ示す

【「努力を要する」状況（C）と評価した生徒に対する指導の手立て】

例えば、△△といった視点で再度考えることを促して、〇〇するよう支援する。

(3) 課題（①、②共通）作成上の注意

- ・ 作成者の氏名は記載しない。
- ・ 受講番号（8桁）は、実施要項添付の名簿を参照する。
- ・ 上下左右の余白は20mm程度、字の大きさは、10.5ポイント。
- ・ 文字数は、1行40から45字程度、1ページ30から40行程度。

4 問い合わせ先

担当 学校支援研究課教育研究推進G（原田）

電話 0561-38-9503（ダイヤルイン）